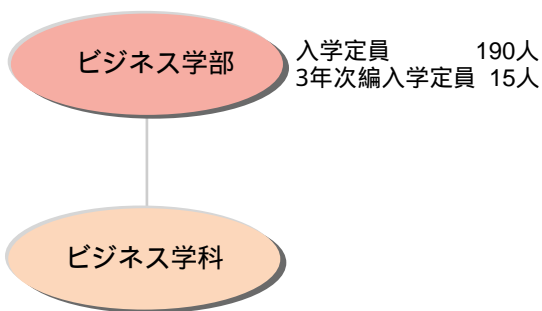


ビジネス学部の新設 (計画中)

文学部、現代社会学部、コミュニケーション学部を擁する長久手キャンパスに、平成16年4月の開設をめざして、第4番目の学部、ビジネス学部の設置計画を進めています。ビジネス学部は平成12年4月に開設されたコミュニケーション学部ビジネスコミュニケーション学科を母体とし、その教育研究組織を拡充して再構築することにより、コミュニケーション学部から分離独立して、ビジネスの分野に特化した学部が誕生します。



ビジネス学部の設置の目的

人間の営みのあらゆる分野において「コミュニケーション」は最も基本的な過程であり、近年、高度情報化、国際化、高齢化社会を迎えてその重要性はますます増大しています。「コミュニケーション」はもとも、人間の生活の全領域、すなわち人間の存在、行為、関係の全構造に関わるものです。

本学はこうした人間の営みの質的世界、意味的世界のそれぞれの視座から、人間関係、ビジネス、言語の3つの分野に焦点をあて、それぞれの各論的アプローチを通して生きた「コミュニケーション」構造を追求することをめざして、平成12年4月、「コミュニケーション学部」を開設しました。人間関係の分野は「コミュニケーション心理学」、ビジネスの分野は「ビジネスコミュニケーション学科」、言語の分野は「言語コミュニケーション学科」として、それぞれ幅広い教育・研究活動を行ってきました。

中でも「コミュニケーション学部」は「コミュニケーション学科」は「ビジネス」における「コミュニケーション」の手段である通貨と関わる「ファイナンス・会計」、「ビジネス」場における「コミュニケーション」について、異なる領域から検討、解説、指導を行います。学生は各教員の教育研究分野の理解を深めるとともに、自己の学習意欲を高め、研究テーマ発見の動機付けとなることを意図しています。

人間の営みのあらゆる分野において「コミュニケーション」について、経済学、経営学、会計学および「コミュニケーション」諸科学から把握・理解し、それらを教育・研究することを目的として設置されました。

ますますグローバル化、情報化が進展する21世紀の現代社会において、ビジネスの場の「コミュニケーション」手段である通貨に関わる金融システムや会計システムは、絶え間ない変革が必要とされています。さらには「ビジネス」における「コミュニケーション」についても、時代の進展と共に、常に変化を求められています。

このように激しく変化する「ビジネス」の分野では、国際感覚に富み、激動の時代に自ら考えるための専門的知識と、さまざまな諸課題を解決しうる実践力を併せ持つ人材の育成の必要性が一段と高まりつつあります。この社会的要請に応えるため、「コミュニケーション学部」を新設し、平成16年4月に開設する計画を進めています。

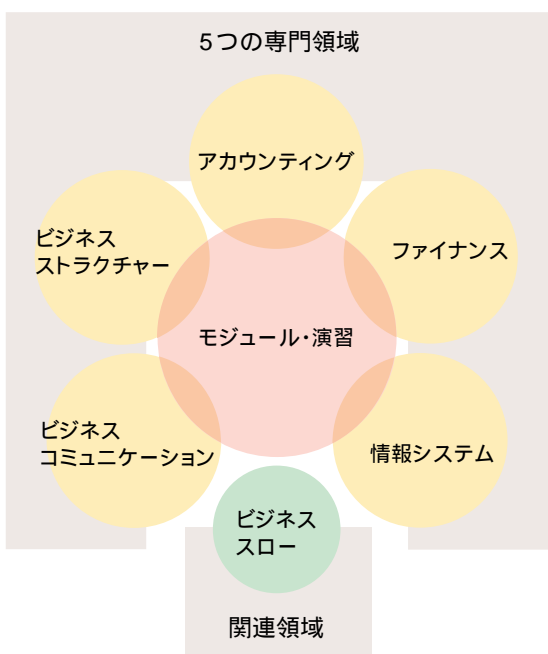
教育課程の特色

ビジネス学部の教育上の目的は、最新のビジネス現場における幅広いかつアドホックな課題に実践的に対応できるような企業におけるさまざまな活動と管理に際しての知識とスキルを学生が修得することにより、5年先、10年先のビジネス活動にも役立つ人材を育成することです。

1 5つの専門領域と11つの関連領域の科目群を設定

ビジネス学部では「アカウントイン

ビジネス学部で学ぶ6つの領域



「グ」、「ファイナンス」、「情報システム」、「ビジネスコミュニケーション」、「ビジネスストラクチャー」という5つの専門領域と、「ビジネススロー」という関連領域の科目群を設置し、さまざまな課題に対応できる実践的な知識とスキルを学ぶように配慮しています。

「アカウントイン」は財務諸表の作成や経営分析などの科目、「ファイナンス」は資金調達や資金運用の知識・技術の修得をめざす科目、「情報システム」はネットワーク設計やデータベース管理の科目、「ビジネスストラクチャー」は経営戦略やマーケティングに関する科目、「ビジネスコミュニケーション」はビジネスの場におけるプレゼンテーション、ビジネスとエンターテインメントの問題、グローバルに活動する企

2 モジュール・演習科目の少人数教育の充実

2～4年次に開設される「基礎演習」「専門演習」などの演習の科目はゼミナールとも呼ばれ、少人数の学生が各自の選択した研究テーマについて、専任教員のきめ細かい個別指導のもと、問題意識を深めながら卒業論文や卒業制作として結実することができるように設置されています。

この少人数教育をより充実させるため、「モジュール」科目をその前段階として1年次に開設します。この科目は、少人数の学生のグループごとに、専門分野が異なる複数の専

3 インテンシブラーニング方式の採用

通常科目については週1回の開講で、2単位の半期完結のセメスター制ですが、集中的に行なった方が教育効果が上がる科目については、週に数コマ開講することにより、高度で深い知識と技能の修得が可能となります。

たとえば「アカウントイン」領域の基礎となる科目「簿記」は、週2コマ開講します。この結果、前期4単位後期4単位を修得することにより、「アカウントイン」領域の基礎知識の理解に欠かせない「簿記」の知識と技能の修得の充実を図ります。

同じように、「ファイナンス」領域の科目「金融工学」、「ミクロ経済学」についても、週2コマの開講を計画しています。

4 専門領域間の低く設定

専門教育科目の専門領域の間の垣根は低く設定されているので、学生一人ひとりの学習能力・意欲や興味に応じて、たとえば金融工学や情報システムなどの専門領域を深く学ぶことができます。一方で、多岐の専門領域から幅広く履修することも可能となるように、柔軟な履修体制を整えています。

また全学共通の言語活用科目、「コンピュータ活用科目群」の充実により、外国語（英語・中国語）、コンピュータ技術のスキル向上などが図れるように配慮されています。

5 資格取得の支援

各専門科目領域の科目群の中には、多様な資格の取得を望む学生の意欲に積極的に応えることができるように、資格取得を支援する科目が設定されたカリキュラム構成となっております。これによって資格取得を希望する学生は、授業終了後、資格取得のための専門学校などへ移動することなく、授業時間帯に履修することによって、時間と費用を節約することができます。